

## グリーンツーリズムによる地域活性化



福島大学人文社会学群経済経営学類  
西川ゼミナール

## 目次

### I はじめに

- 1.ゼミナール概要
- 2.地域概要
- 3.調査概要
  - (1) 基本データ
  - (2) 調査内容
  - (3) 調査スケジュール

### II 調査結果

- 1.事前調査
  - (1) 日本の林業が抱える問題点
  - (2) 事前に立案した活性化策
- 2.実地調査
  - (1) 生活
  - (2) 産業
  - (3) 自然・景観
  - (4) 伝統・文化
  - (5) 地域の方々の声
- 3.現状分析

### III 活性化策

- 1.活性化策の概要
- 2.活性化策
  - (1) 第1段階
  - (2) 第2段階

### IV おわりに

謝 辞

## I はじめに

### 1.ゼミナール概要

西川ゼミナールでは、「中小企業の経営戦略」を学んでいます。一番の特徴は、実際に地域や企業の現場を訪れ、これまで学んだ経営学の知識や理論を活用することです。

### 2.地域概要

三和町（沢渡地区）は幹線道路である国道49号線が通っており、高速道路のインターも近く、交通の便に恵まれています。特に林業が盛んな地区で生活が林業収入で賄われていましたが、近年、木材需要等の低迷などにより採算性があわず林業収入での生活ができなくなってきました。このようなことから、都市部で働きに行くなど家を継ぐ若い世代が少なく、空き家と少子高齢化が進み、場所によっては、平均年齢層が60歳代の地区（限界集落に近い）も存在しています。

本地区の人口、世帯数、高齢化率は以下のようになっています。

人口	世帯数	高齢化率
726人(男性333人・女性393人)	221世帯	33.6%



### 3.調査概要

#### (1)基本データ

ゼミ名	西川ゼミ
ゼミ代表者名	小野雅人
調査実施者	3年生5名、2年生5名
指導教員名	西川和明（福島大学経済経営学類教授）
調査対象集落名	福島県いわき市三和町沢渡地区

#### (2)調査内容

現地を訪れる前に事前ワークショップを行い、日本の林業が抱える問題点をメンバー全員が認識しました。そして、沢渡地区に対するイメージをまとめ、メンバーがそれぞれの

活性化策を考えた上で、地域調査を実施しました。現地では、3班（上市萱グループ、下市萱グループ、中寺グループ）に分かれて地域の隅々を調査しました。その際には、①事前に立案した活性化策が実現可能なのか、②1つでも多く地域の良い所（強み）を発見する、この2点を意識して調査を行いました。調査1日目の夜の懇親会では、集落の住民の方々と積極的に意見交換を行いました。一連の調査をもとに、再度、メンバーそれぞれが活性化策を立案し、議論を繰り返し、今後の活性化策をまとめました。

### (3) 調査スケジュール

7月 事前ワークショップ

9月 9日～10日 第1回地域調査の実施

11月 集落活性化県民討論会



## II 調査結果

### 1. 事前調査

事前ワークショップをメンバー全員で行い、日本の林業の抱える問題点、その活性化策を考えました。

#### (1) 日本の林業が抱える問題点

- ① 日本は世界有数の森林資源大国である。森林面積は約2500万ヘクタールに上り、国土に占める比率は67%と先進国トップクラスを誇る。戦後植栽された人工林が成熟し、森林蓄積量も約44億立方メートルと40年前の2倍強に膨らむ。
- ② だが、国内で使われる木材は約8割が安い輸入材だ。国産材は輸入材との競争で価格も1980年代から下落。今では林業者の出荷コストさえ回収できない水準だ。森林が放置され、林業は衰退。
- ③ 林業を巡っては就業者の減少とともに、高齢化も深刻な問題だ。総務省が行った2005年の国勢調査によると、1965年に約26万人いた林業就業者は05年に約4万7000人まで減少。一方、65歳以上の高齢者の比率は40年間で4%から26%に上昇した。山村の高齢化、過疎化が進んでいる。

その半面で、次のような追い風もある。

- ① この林業の経営環境が今、大きく変わり始めている。一つは京都議定書で約束した温暖化ガスを1990年比で6%減らす期限の2012年に近づいていることだ。3・8%分を森林の二酸化炭素(CO2)吸収量でまかなう計画だが、森林の手入れが進まないため吸収力が減退。国や市町村が森林整備の支援強化に動き出している。
- ② 森林は木材生産などの経済的機能のほか、日本学術会議の試算では貨幣換算で年間約70兆円にも相当する水源かん養、土砂災害防止などの公益的機能がある。森林資源を恒久的に維持し、森林が生み出す利益を地域に還元する努力が欠かせない。
- ③ 中国の木材需要の急増、ロシアの木材輸出関税の大幅な引き上げなどで輸入材が値上がりし、国産材との価格差も最近では縮小。軌を一にして戦後の拡大造林で生まれた人工林の多くが主伐期を迎えた  
森林整備を加速し、林業を活性化させる好機といえる。

#### (2) 事前に立案した活性化策

##### 林業のイメージ

##### プラスのイメージ

- ・ 中国から日本に来て、日本の大自然の美しさに感動した

##### マイナスのイメージ

- ・ 工事現場と同じように肉体労働ですごく疲れるのではないかと

- ・作業中に熊などが出て襲われるかもしれないから怖い
- ・職人技のようなものが必要で仕事が難しいのではないか
- ・木を大量に切った後は山が禿げてしまい、生物に何らかの影響を与えてしまうなど、自然に悪い印象

### 活性化策

- ・林業の悪いイメージを良いイメージに変える
- ・その村にあるものを使って活性化させる
- ・子供、若者、社会人に都会にはない魅力を伝えていく
- ・実際に仕事を体験してもらい林業の魅力を伝える
- ・岡山県の西栗倉村のように、移住者の受け入れにより林業の担い手・働き手を確保し、小規模でも成立する経済サイクルの基盤をつくる
- ・体験型のグリーンツーリズムを行う
- ・アンテナショップで、地域に関する昆虫の標本や、スタンプや、森の絵の手本や、木で作った小さな家具のおもちゃや、オリジナル野菜、果物、花などを販売する

## 2.実地調査

### (1) 生活

- ・地域の人々が温かい
- ・地域の人が元気で暮らしていることと団結力が優れている



- ・自動車でも 20 分ほどの距離に中心市街(平地区)や好間地区の工業団地があるという面で、交通に便利
- ・地域の人材は木材で建物を作るのが得意



- ・最近、新しく転校して来た子がいる（親の転勤とは関係なくその子の親が自然あふれる環境で子供を育てたいとのことでこの沢渡地区に引っ越してきた）
- ・少子高齢化とともに、活動や交流が少なくなってきた
- ・小学校が廃校（学校の生徒が少ない）



- ・中学生などは、やはり自分のやりたいこと（例えば、部活動など）をしたいために、自分の住む村から少し離れた町へ行くようになる
- ・空き家が増えてきた



- ・街灯がなく、夜怖い
- ・インフラ整備が整っていない（地デジ、携帯の電波）
- ・バスの時刻が非常に限られているという面で、交通に不便

先	いわき駅前	上三板	先
6			6
7			7
8	52		8
9			9
10			10
11			11
12			12
13		43	13
14			14
15			15
16			16
17			17
18			18
19			19
20			20
21			21
22			22

・近年イノシシが山から下りて、畑作をあらすといった被害が多数出ている（それを防ぎ、収穫をより効率的に行うために導入したのが、このイノシシ避けであり、約 26 万円の費用がかかる）

## (2) 産業

- ・木材の量が多い



・明治 37 年に三坂にておよそ 1700ha の土地が払い戻しされており、一世帯あたり 5ha の土地を保有しており、そのほとんどの民家の住民が保持している

・チェーンソーで豪快に木を切っていく様と、プロセッサと呼ばれる機械を自分の手のように器用に操作する姿を見て、林業の繊細さとスケールの大きさをまじまじと感じた





- ・品質の面からみると圧倒的に国産材のほうが優れている
- ・輸入材で家を建てると、耐久年数は50年ぐらいであるが、国産材の場合、100年はもつ
- ・檜の良い匂いが癒しになる
- ・そば、芋焼酎などの美味しい「食」がある



- ・成長が早く生産コストが安い輸入木材に対して価格競争力が低い
- ・出荷しても採算が取れないため、森林が放置されている
- ・従事者の減少および高齢化が著しい
- ・大手ハウスメーカーは、コストの問題などから外材や集積材を利用することが多く、国産材の利用率は低い（2割程度）
- ・杉の値段が下がっている
- ・個人商店がなくなってしまった
- ・最近の海外市場において、海外の会社が日本林業を買収しようとしているのが不安
- ・林業に対してどういったメリットが自分に返ってくるのかを分からない、または知らない若者が増え続けている
- ・高齢者がほとんどであり、途中から林業を始めたという人もいたが、大半はそう簡単に長くは続かない
- ・新しく林業を始めたいという人が出てきたとしても、林業を営む上でも、高度な技術が必要であり、それを習得するのにも講習会を受講しなければならず、多くの時間をかけなければならない
- ・国内木材の価格が上昇しない限り、低所得であるため、若者は来ないのではないかと
- ・特にこれといった受け入れを補助してくれる制度などはない
- ・移住者受け入れは、村の受け入れ情勢なども良くないため、現段階としては難しい
- ・生活をしていくのに必要な生活費を稼ぐために、林業よりも本業に専念する人が多い

### (3) 自然・景観

- ・密生した森で囲まれた村や住宅地が神秘的
- ・都会にはない大自然の景色がいい

- ・ 山頂から流れてくる小川が癒しの空間を作りだしている



- ・ 空気がおいしい
- ・ 花の種類が多い
- ・ ホタルの生息地が数か所ある
- ・ 「のんぼけの森」は、都会から別荘地となっている
- ・ 自然 100%の長沢の水神の水



- ・ 自然の美しさと宿場町だった頃の面影を感じさせる木造住宅の景観の良さ
- ・ 沢ガニの姿を見かけるほど水が綺麗
- ・ 町並みが辺りに広がる田園や畑、小川そして杉山といったのどかな風景
- ・ 町外の人が、一般の民家の前の土手などから勝手に山菜などを採っていく
- ・ 山にゴミを捨てる
- ・ ゲリラ豪雨など自然災害の多発のため、生息する生物が減少してきている

#### (4) 伝統・文化

- ・ 宿場町の名残がある家では丸太を屋根にまるまる一本使っていることや、薪ストーブがついているなど、地域の自然を活かし、どこか温かく趣ある町並みだった

- ・ありのままの建築、宿場町の町並み、杉の大木、大山桜の木、別荘、釣堀、歴史がある神社、などの本格的な日本の田園風景



- ・シュホウ神社の杉の大木、イチョウの大木が素晴らしい
- ・山津見神社のもみの木（直径およそ 2.2m、地上 600m。昔に雷が落ちて、それがきっかけで木は 2 つにわかれて育っている。この神社は火災が起きないようにと火の神様を祀っている。今年でだいたい創立 200 周年を迎える。）



- ・若者の減少により、地域の祭りで神輿を担ぐ人がいなくなってきた

#### (5) 地域の方々の声

- ・「国・県に林業のサポートをもっとやってほしい」
- ・「海外企業に山林を買収されないか不安だ」
- ・「山、自然、水、空気がこの地域の良い所だ」
- ・「自分たちの地域は、自分たちで守る」
- ・「若者を呼んで、地域の祭りを活気づけたい」
- ・「杉の価格を何とか上げてほしい」
- ・「木質ペレット以外の間伐材を有効活用する手段を考えてほしい」

### 3. 現状分析

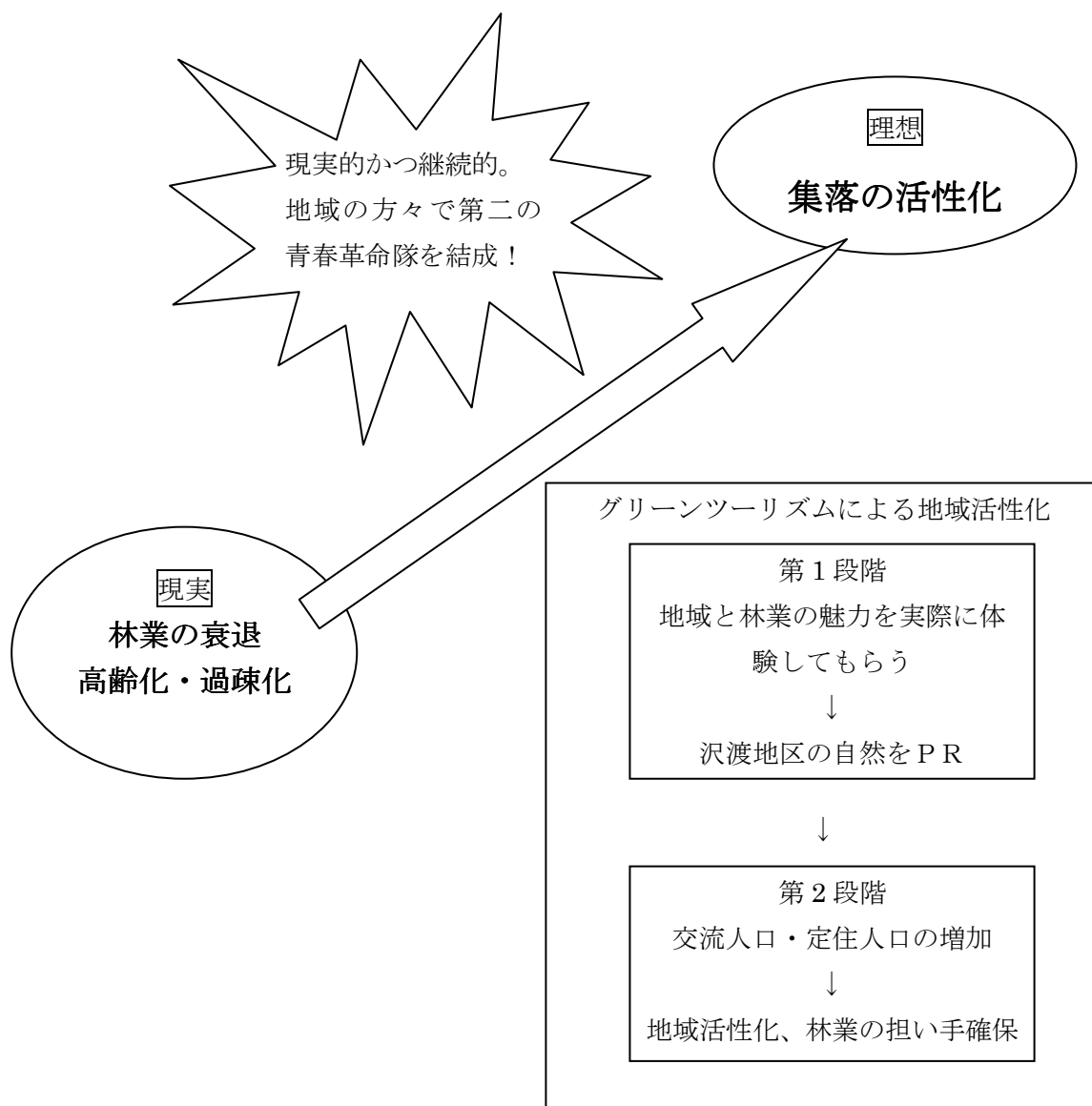
#### SWOT分析

環境	SWOT分析	
内部環境	Strength (強み)	Weakness (弱み)
	地域の人々の温かさ、団結力 木材（加工しやすい沢渡杉、間伐材） 山菜・キノコが豊富 蛍が生息 森・川などの大自然 宿場町の町並み、杉の大木、大山桜 空き家、廃校になった小学校 そば、芋焼酎などの特産品 中心市街地に近いため交通に便利	林業の担い手不足 過疎化・高齢化の進行 輸入木材に対して価格競争力が低い 木材の質が悪く、ブランドがない 出荷しても採算が取れない 森林が放置されている 木材の生産性や品質の向上 木材の流通・販売の仕組みの整備 バスの1日2回程度しか走っていない 街灯がない インフラ整備が整っていない 移住者など受け入れ態勢が整備されていない ゴミ問題
外部環境	Opportunity (機会)	Threat (脅威)
	癒し・環境に対する消費者ニーズの高まり（エコブーム、自然を求めて転校生が来た） 木材の地産地消の推進（県産材住宅ローンの利子額補助制度など） 国や市町村が森林整備の支援強化 中国の木材需要の急増 ロシアの木材輸出関税の大幅な引き上げ 国産材との価格差も最近では縮小傾向	安価な輸入材 木材価格の低迷 国産材の利用率が低い（2割） 最近、海外企業が日本の山林を買収する動きがある 地方の農山漁村において、地域活性化に向けた同様な取り組み

⇒豊富な山林資源を効果的に活用した体験型グリーンツーリズムにより、地域と林業の魅力をPRしていくことで、集落の活性化を図ります。

### Ⅲ 活性化策

#### 1.活性化策の概要



#### 2.活性化策

##### (1) 第1段階

グリーンツーリズムにより、地域と林業の魅力を実際に体験してもらうことで、沢渡地区の自然をPRしていきます。グリーンツーリズムとは、緑豊かな農山漁村地域において、その自然や文化や人々との交流を深め滞在型の活動をしながらゆとりある休暇を楽しむことをいいます。グリーンツーリズムの実行に向けて、以下の4つの地域資源が必要です。

**ヒト** 第二の青春革命隊を結成します。

第二の青春革命隊とは、地元の定年になり退職した方々で結成されるグリーンツーリズム運営委員会・実行部隊のことです。多くの地域が行っているグリーンツーリズムから沢渡地区もできそうなことを学び、地域伝統を衰退させないように地域住民への地域活動への参加を呼びかけます。

**モノ** 豊富な地域資源を効果的に活用します。

沢渡杉、山菜・キノコ、蛸、森・川などの大自然、宿場町の町並み、杉の大木、大山桜、空き家、廃校になった小学校、そば、芋焼酎などの特産品など…。

**カネ** 廃校、空き家、空き地にグリーンツーリズム参加者受入場所にします。

参加者受け入れのため、廃校、空き家、空き地の改修費が必要です。

**情報** ホームページを作成し、全国の「自然」や「癒し」に興味のある人をターゲットにしてPRします。

具体的には、

- ・ 沢渡グリーンツーリズムの案内、地域イベントの情報をアップします。
- ・ グリーンツーリズムの様子などを画像、映像で発信します。
- ・ グリーンツーリズムを実地している他の地域との交流や連携を図ります。

### グリーンツーリズムの具体的内容

#### 事業例 1) 宝探し

沢渡地区の観光ポイントなどを自分たちの足で歩いてもらうことによって、ダイレクトに地域の魅力、特色に触れ合うことができます。沢渡地区の美しい景観や有名な場所をまわってヒントを集めて、最終的にお宝を発見してもらいます。



目標を人物に設定するといった方法で、地域の人々との会話、交流が可能です。



第一発見者には地域特産物などをプレゼントします。

チェックポイントなどを設け地域の名所を巡ります。



実際に、私たちは沢渡地区の地域調査をしましたが、地域の現場でしかわからない、感じることでできない魅力がたくさんありました。沢渡の美しい緑の中で、美しい景観、森の匂いやせせらぎ、おいしい空気、宿場町の風景などを、五感をフルに活用して沢渡の魅力を感じてもらいながら、宝探しに参加してもらいたいと思っています。

## 事業例 2) 林業体験

①地域産業である林業を体験してもらいます。



間伐材をチェーンソーや、のこぎりで切断します。また、切断した間伐材を加工・細工しやすいようにします。実際に私たちは、チェーンソーを使って木材を切断し、林業の楽しさや切断する際の爽快感を感じてきました。「自然」や「癒し」に少しでも興味のある方には、ぜひ一度体験してほしいです。

### 事業例 3) ものづくり体験

①事業例 2 で切った間伐材を利用した木材細工作り体験 をします。



沢渡杉の特徴は柔らかいことです。そのため、加工しやすいです。

### ②ソバ打ち体験



沢渡地区の美味しい水を使った十割そばを作ります。

#### 三和グリーンツーリズムプラン例

##### 一日目

午前の部

オリエンテーション～林業体験～昼食～

午後の部

山菜とり～ものづくり体験～夕食～蛍観察～懇親会～就寝

##### 二日目

午前の部

ソバ打ち体験～昼食～帰省



### (3) 第2段階

第1段階では、十分に地域と林業の魅力を実践してきました。第2段階では、季節、地域イベント、参加者のニーズに応えた事業を組み合わせることで、マンネリ化を防止し、何度も楽しく参加できるように知恵を絞って、日々工夫していきます。また、実際に移住者の受け入れを行い、第二の青春革命隊により、林業の担い手の確保のために技術指導などを行います。しかしながら、いくら若者が林業に興味を持って、林業で所得を稼ぎ、生活を営めなければ、担い手不足の問題は解決しません。そのため、林業の収益性を高めるために、国や県のサポートが不可欠です。

このように、第1段階と第2段階のステップを踏むことで、林業の衰退や過疎化などの問題を克服し、集落の活性化を図ります。

## IV おわりに

今回の地域調査を通じて、林業が抱える問題点を目の当たりにしました。林業の問題は今すぐに解決することは難しいです。沢渡地区だけではなく、日本全体が危機感を持って真剣に取り組むべき重要な問題だと感じました。また、調査を通じて、「自分たちの地域は自分たちで守りたい、元気にしたい」という地域の方々の熱い思いが伝わってきました。林業の現状を説明して下さった林業従事者の方の顔が少し悲しそうにも見えました。そのような地域の方々の「思い」を知っていながら、地域が抱える問題を解決する、誰もが驚く画期的な活性化策を提案できない自分たちの力不足も感じました。

しかしながら、よそ者である私たちを快く受け入れていただき、とても親切に接して下さいました。沢渡地区の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。沢渡の大自然の中で、地域の方々のやさしさに触れて生活したこと、軽トラックで山道を案内していただいたこと、懇親会でたくさんお話をしたこと、生まれて初めてチェーンソーを使って木材を切断したことは、私たちにとって本当に貴重な経験でした。とても温かく、居心地が良かったです。本当にありがとうございました。

## 謝辞

本報告書を作成するにあたり、調査にご協力いただきました下市萱区長の佐藤様をはじめ、集落の皆様には大変お世話になりました。よそ者である我々大学生を快く受け入れて下さり、本当にありがとうございました。

本事業全体を通して、福島県企画調整部地域振興課の小林様、いわき市三和支所の會田様、引率して下さいました福島大学経済経営学類教授の西川先生には大変お世話になりました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。